

普及現地情報
令和8年7月27日
久慈農業改良普及センター
記述者 山本 明日香

花きほ場巡回が開催されました

花きほ場巡回(主催:JA新しいわて久慈地方花き部会)が、7月15日に管内3市町村で開催され、久慈地方のスプレーギク生産者10名が参加しました。当ほ場巡回は、スプレーギク生産者が相互の栽培状況や開花状況を確認することにより、生産意欲や技術の向上を図ることを目的に、毎年開催されています。

当日は、6か所のスプレーギク栽培ほ場を巡回しましたが、一部ほ場では、病虫害の発生や、連作障害が疑われる症状の発生があり、防除や土づくり等の課題が明らかとなりました。

研修会では、種苗メーカーのイノチオ精興園の担当者から、スプレーギクの中でも耐暑性のある新品種等について説明を頂きました。普及センターからは、スプレーギクの収穫前の栽培管理について説明を行いました。

きく類は、昨今高温傾向で需要期より開花が遅延していましたが、今年は7月上旬まで前年より気温が低く推移したことが影響し、開花が順調に進んでいます。今後、生産者は巡回でのアドバイスを元に、適期出荷に向け、栽培管理を進めていきます。



▲スプレーギクのほ場を見学する生産者



▲膜割れ期のスプレーギク